

最新型「胃部デジタルX線検診車」を配備

～納車・配車式を執り行いました～

日本宝くじ協会の社会貢献広報事業の助成を受けて、公益財団法人予防医学事業中央会が整備しました。

島根県は東西に細く伸び、県の大部分は山地・丘陵地で占められた中山間地域と離島で形成され、人口減少と高齢化が著しく進行しており、医師不足、医療機関の減少など医療体制整備の大きな課題となっています。多くの地域で医療施設が限られている現状を踏まえ、予防医学事業中央会島根県支部（島根県環境保健公社）は、県東部の松江市と出雲市、県西部の浜田市に主な拠点を設けて、地域検診、職域健診、学校検診など「社会貢献度の高い公益事業」を展開し、県民の健康維持向上を図っています。胃がん検診については、検診車を計5台配備しており、県下の中山間地域・離島を余すところなく巡回しています。



国では胃内視鏡検診も推奨されており、人口が集中する一部の地域を中心に組み込まれていますが、医師不足(地域偏在)を背景に実施環境の整備は厳しい状況であります。予防医学事業中央会島根県支部（島根県環境保健公社）が現在保有する胃がん検診車のうち、数台が消耗による老朽化が進んでいますが、この度の配備で引き続き、中山間地域や離島の地域住民を中心に継続して胃がん検診の受診機会の提供が可能となります。

令和8年2月5日(木)に公益財団法人予防医学事業中央会櫻林理事長をはじめ、検診車製作に携わっていただいた企業様をお招きし、納車・配車式を執り行いました。

